

孝道

Newsletter

第5号 2025年冬号

尊敬する会員の皆様

明けましておめでとうございます！



孝道ニュースレターを発刊してはや2年目を迎えることになりました。私たちの活動を紙面で紹介することで、会員の皆様から直接いろいろな声を頂くことが多くなり、より活動を活性化できた一年でした。

親孝行と言えば、一方的に親に何かして差し上げることだと考える方も多いかもしれません、実は親孝行は、親が子供に与えた愛に対する報いなのです。親なしでどうして私がこの世に生まれるでしょうか？どうして私の今日、明日があるでしょうか？

家庭で親孝行を実践することで親に感謝し、兄弟姉妹に感謝する心を育てれば、社会で他人の親も尊敬し、感謝することができ、友人、

同僚にもそうすることができます。

私たちはこのようなことを頭だけで知るのではなく、実践することで親孝行の実体になると、様々な活動を進めています。両親への感謝の手紙・作文を募集したり、孝道奨学金授与、毎月のオンライン交流会、ボランティア活動、孝道作文選集出版などの活動を通じて、私だけでなくみんなが一緒にでき、共に感謝し、喜べる社会を作るために、本財団は常に努力しています。

これまで多くの会員の皆様と、志のある方々のご支援に支えられて、何もなかったところからここまで来ることができました。

心から感謝いたします！

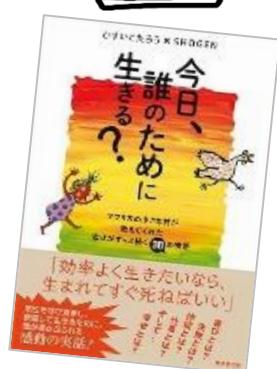
一般財団法人孝道文化財団 理事長 李貴史



伝わるまで伝えよう…

アフリカのある民族の素敵な日常会話の話

萩原利之先生 (埼玉県公立小学校教諭)



10月6日、埼玉県公立小学校教諭の萩原先生をお迎えしました。最初にひすいこたろうX SHOGENさんの『今日、誰のために生きる？』を紹介され、SHOGENさんが「ティンガティンガ」の絵に魅せられ、翌日会社へ退職願を出し、翌々月には単身アフリカに渡ったというお話をされながら、なぜそのような行動をしたのかを、ティンガティンガの魅力だったり、アフリカのブンジュ村の挨拶「今日誰のために生きる？」を紹介されたりしながら、小中高校生とともに「幸せ」について考える機会となりました。(前崎)

面白かった。ダンボールのたとえは感慨深い。違う文化だからその差が見える。日本なら誰も理由や思いを話さない。ただ約束したら必ず一回目に渡す。あと、おばあちゃん家に運んであげることもないと思う。喧嘩後の仲直りも凄く美しい。物の豊かさとは違う豊かさ。この話はみんなに話したいです。

やっぱり感謝の気持ちは大切なんだと思いました。

伝わるまで伝えるっていいことなんだと思いました。



中華料理チェーン店
株式会社 浜木綿 林永芳社長
(はまゆう) (はやし・ながよし)

◆会社紹介(ホームページより)

「おいしい時間はつながる時間」(企業スローガン)

中国料理「浜木綿」は、東海地方を中心に40店舗、従業員1500人で全国展開している中華料理チェーン店である。健康・安心をテーマに、ヘルシーな中華料理を提供している。

◆「四世同堂」と「癒食同源」というモットーで
四世同堂(しせいどうどう)

「家族・子連れでゆっくり
楽しめる中華料理、チェーン
店、四世代が集えるレストラ
ンをめざしている」(林社長)

そのコンセプトの通り、店 内には沢山の個室や円卓が並べられており、グループやファミリーが使いやすいように配置されている。

癒食同源(ゆしょくどうげん)

また食を通しての健康(医食同源)だけでなく食を通しての心の健康実現も目指している。



◆家族のために1番を目指す

会社がどんどん発展する中、林社長は仕事が忙しく、家族とともに過ごす時間が取れず、葛藤していた時期があった。娘たちが東海や名古屋の水泳大会で優勝したり奮闘するのを見て「目標を持ってがんばれ」と言っている自分自身も大きな目標に向かって奮起せねばと思い、中華料理で中部一を目指そうと決意した。

◆1993年に天命を自覚

しかし、長年的心の課題として「人は何のために生きるのか。何のために仕事をするのか」があった。「年商20億円」(1993年当時)を目標に掲げたものの、実際に20億円を目指すと自分にも周囲にも負荷をかける。そこまでやる意味は何なのか。そんな折、恩師芳村思風氏の哲学に出会い、一つの答えが出た。

父が台湾出身で、自分が中華料理に関わっているのは天命かもしれないと思えてきた。世界に名だたる中華料理の文化と心を多くの人に伝えたい。心の中の課題が整理できた。

◆苦難を超えて

2008年のリーマンショックの折には、それまでずっと右肩上がりだった浜木綿も大きな打撃を受け、会社の存続すら危ぶまれるほど危機に陥った。しかし、ピンチをチャンスとし、会社の体質を改善し、次の飛躍へと繋げた。

再び順調に業績を伸ばしながら迎えた林社長古希(70歳)の2018年、長年愛知県中華料理生活衛生同業組合の理事長を務め、その発展に寄与した功績を認められ、旭日双光章を受勲し、ご夫妻で皇居へ参内する栄誉にあずかった。

翌年2019年、とうとう生涯の念願であった東京と名古屋での株式上場を果たすことができた。

◆最後に…

Q.社長、仕事でも人生でも大成功されていますが、その秘訣はなんですか？

A.私がここまで来れたのは、いろいろな人の出会いがあったからだと心から感謝しています。若い人たちに伝えるとしたら「楽しく生きる、楽しく働く」ということでしょうか？

今やっていることに価値を見つけ、納得しながら生きること。どんな人でも、自分の人生では自分が主役。自分が責任を持って生きていくと言う自覚を持つことから人生が始まると思います。ぜひワクワクしてください。(取材、文責 中部支部・澤木)

■プロフィール■(自伝より)

1971(昭和46)年に中部工業大学(現中部大学)建築学科を卒業し、浜木綿に入社、77(昭和52)年から専務取締役、87(昭和62)年代表取締役社長に就任。2007(平成19)年から愛知県中華料理生活衛生同業組合理事長、15(平成27)年同組合名誉会長を就める。18(平成30)年旭日双光章を受章。

孝道文化国際大会 in Japan

各支部大会の様子



中部大会



子供の作文で、家族がひとつに



9月16日、名古屋都市センターにて、中部支部主催で第3回孝道作文コンクールが開催され、受賞者とその家族約70名が集いました。今年は、第一部の表彰式はもちろんのこと、第二部の交流会に力を入れ、家族ごとがテーブルに座り、全員が感想を共有する時間をゆっくりと持つようにしました。お子さんが作文を書くことで、家族がよりひとつになり、家族の力を実感する、涙あり笑いありの素晴らしいひとときとなりました。(中部支部)

愛がいっぱい詰まった催しね♥

東北・北海道大会



10月5日、第2回孝道作文コンクール東北・北海道大会表彰式が行われ48名が集まりました。今回は、宮城県外からの青年、一般から多くの応募があり、前年の2倍以上の作文が集まりました。中1の孝道奨学生と青年のユーモアとセンス溢れる司会により、心なごむ、暖かい雰囲気で始まりました。一部は李理事長の挨拶、田代講師の講話、受賞者の作文朗読、昨年受賞した子の母からの手紙など、どれも胸が熱くなりました。

二部は、美しい韓国舞踊、飴争奪戦ゲームは大人から子供まで真剣勝負(笑)！最後に、普段伝えられない感謝を書いて伝え合う『ホメホメ』をしました。子から親へ、親から子へのメッセージに感動。「笑い合い、励まし合うのが一番大事だと教えてもらいました」などの声が聞かれました。(東北支部)

フチ・サプライズ！



首都圏大会

10月6日渋谷にて、孝道作文コンクール表彰式が行われ、受賞者とその家族約70名が集まりました。来賓の挨拶に続き、受賞者に話しかけながらの李理事長の挨拶は会場の笑いを誘いました。授賞式、審査講評、作文の朗読と終始和やかな雰囲気で進み…突然プログラムにないサプライズ！「受賞者の親御さん感想を」と司会から指名され、戸惑いながらも話す親の思いは心を打つものでした。最後にハートフルコーラスから歌のプレゼント。参加者もともに歌い、会場がひとつになり、会場は笑顔と幸せに包まれました。(LB)





夫婦で総合司会



↑ 基調講演：野口芳宏先生
←作文コンクール受賞者



台湾、韓国から来賓



シルクロードダンス
(千手觀音)



横濱中華学院校友會



YAMATO



ナポリ (パレー)



池田翠里 & 竹下愛華



楊高坤



ハートフルコーラス (歌とダンス)



双劉舎 (变面)



全国の活動展示



書道展



孝道作文選集第三集

～今年2月の販売にむけて制作中～

2024年孝道作文コンクールの受賞作文をさらに厳選して、第二集と同様、素敵な本となるように鋭意、制作を進めています。お楽しみに！



作文選集制作会議の様子



↑ Webサイト

発行元：一般財団法人 孝道文化財団

発行日：2025年1月1日

〒150-0043渋谷区道玄坂2-15-1ノア道玄坂215

TEL: 03-6433-7416

E-mail: kodobunka@gmail.com